- I want to wash my hands. May I go to the back room?
- o It's too hot. May I take off my coat?
- o I have a question about it. May I ask you?
- May I take Takeo to the rest room? He tells me *headache.
- o Must I write all? It's too much for me.
 - ⑦ 教師の問いかけ、話しかけに対する生徒の応答例
- o I don't know, I'm sorry. o I'm not sure.
- o I'm afraid, I don't know. O You're welcome.
- o I can't understand it.
- o I see. I understand.
- ⑧ 生徒の response に対する教師の受けとめ例
- \circ Oh, I see. $\,\,\circ$ Very Good. $\,\,\circ$ You're right.
- o Fine. o Well, it's not good. Think it again.
- o That's a good idea. o Yes, please do.
- o No, please don't.
 - ⑨ 授業おわりのあいさつ例
- o Time is up. o Let's (We'll) stop here for today.
- o That's all for today o So much for today.
- o See you again next week.
 - ⑩ 程度の進んだ生徒に対する文例
- o I'm very happy to have you this morning.
- o Take out your books, but don't open them yet.
- Keep your textbooks *closed.
- o Suppose all of you are Lucy and I'm Alice. I'll speak first as Alice. All right?
- o Read from line 2 to 9 on page 80.
- When I say, "Right," you must say "Left."
 Now, let's try some.
- o If I say, "He washes his car," say all together, "He has washed his car." Are you ready?
- o I want to put the picture on the wall. Please help me, Hisako. Thank you very much for helping me.
- Read your papers once more before you hand them to me.
- Take your dictionary. Look up the word. What does your dictionary say?
- o *Exchange your notebooks with your friends.
- c Don't write in ink. O Write in larger*letters.
- Don't ask your friends. Try to do it by yourself.
- o Can anyone find any mistakes here?
- Oh, here is only a piece of chalk. Yumiko, please, go to the teachers' room and get some.
- This is very important. You must read it five times at home.
 - 注: * 印は N. P. E. C にない語·····→は予想される 生徒の response を表わす interval

4. Classroom English 活用上の留意点

classroom English の活用とは、授業の過程をすべて 英語 only で進めてゆく、いわゆる直接教授法 (direct method) ではない。時に応じて translation も必要であ ろうし、語法の説明も行なわなければならない。母国語 を適切に利用することが効率的であることはいうまでも ない。このような事実をふまえながら活用上の留意点を いくつか挙げてみたいと思う。

① 入門期あるいは学年当初から使うのが、もちろん最も理想的であろう。しかし、いろいろな事情で、学年中途から使う場合には、生徒に混乱や不安を起こさせないような事前の配慮が必要であり、また1日も早くmood に慣れさせるように努めるべきである。

なお順応性・習慣性という点では, 教師より生徒の方がはるかに強いものである。

- ② 毎時継続的に使うべきである。ときどき思い出したように使うのでは classroom English としての意味がないし、また natural な運用は望めない。
- ③ 生徒の受容能力にあわせて,意図的,段階的に簡易な文から多岐なものへ,平易な内容から密度の濃いものにと,質的に量的に高めふやしてゆくべきである。
- ④ 教科内容と密接な関連のもとに使うべきである。 特に前々時、前時、本時の文型や語を優先的に多用し て、その定着化をはかりたい。
- ⑤ ことばには可能な限り.emotion を加え, gesture を伴せたい。たとえば, smiling face で "How restless you are!"といったら生徒は戸惑ってしまう。逆に "I'll give you five minutes more."といいながら,時計を指さし,5本の指を広げて示せば,生徒は視覚と聴覚の両面から適確な判断をするであろう。
- ⑥ classroom English はその性格上, hearing の要素がより多くなるのは,いたし方ないとしても,極力生徒の反応を求めたり,生徒からの発言を促すような配慮をして,教師からの one way にならないように努めるべきである。
- ⑦ 未習語 (特に contend word) であっても、必修語に含まれる語または popular な語については、 時に応じて使っても止むを得ないと思う。しかし活用することが目的であって難語の random な濫用はあくまで避けなければならない。
- ⑧ 同一内容の英文であっても画一的でなく,生徒個人,あるいは group に対して, その能力差を 考慮の上,表現法を 変えて 使うべきである。 そうする ことによって,特定の生徒にかたよらず,より多くの生徒とのcommunication が可能になってくると思う。

以上が活用上の留意点であるが、classroom English が常に合目的的に活用されるためには、時にみずからの 授業を録音再生し、教師の日本語のうち、英語にかえた 方がより活動的と思われるものがなかったかどうかを検 討反省する機会も必要であろう。また生徒の speech に mistake があった場合の心理的な配慮も、機に応じて必要であろうし、support のことばや、間髪を入れずに投 げ返す適当な reward、encouragement の語も怠りなく 準備しておきたいものである。